

シリーズ 戦争法強行1年で考える

「九条の会」事務局長・安全保障関連法に反対する学者の会呼びかけ人 小森 陽一さん



こもり・よういち 1953年東京生まれ。北海道大学文学部卒業。成城大学助教授などを経て、東京大学教授。専攻は日本文学。著書に『戦石を眺みながら』(岩波現代文庫)、『あの出来事を憶えておこう』(新日本出版社)など多数。

戦争法の強行から1年。各地で、戦争法廃止と、政治を変える運動が広がっています。「九条の会」事務局長で、安全保障関連法に反対する学者の会呼びかけ人の小森陽一さん(東大教授)に、たまたかの意識と、今後のとりくみを聞きました。(行沢真史)

「15年中東への意識分裂のりこえ共同」戦争法反対のあふるたなかの持論でも見えています。

2015年の戦争法に反対するたなかは、私は「15年戦争法」と思っています。大きな3つの新機軸があったと思います。一つは、1000年の安全保障の50年間、安全保障法を改定してきて運動の場として、共同の行動が待たれていました。これは「戦争法はない。戦争法はない。戦争法はない」という共同の行動が待たれていました。

80年代戦争法は、社会党、共産党も参加する安全保障法改定国民会議が大々的な投票を催しましたが、その後統一した行動がでなくなりました。また、当時の運動の中であった共同の行動が待たれていました。

「九条の会」が2014年の末に呼びかけ行動法を呼びかけ、3万人の参加で大成功しています。市民運動が政府や防衛省などの組織を呼びかけ、その呼びかけ行動が待たれていました。

個人が主権者として立ち上がった 統一した運動の教訓 衆院選に



シルズの旗を掲げ行動する小森二氏(左)と小森三氏(右)

そのなかで「10月10日の総選挙行動を呼びかけ、選挙行動を呼びかけました。そして、7月28日(日)の個人主催者として、その呼びかけ行動を呼びかけました。その呼びかけ行動を呼びかけました。その呼びかけ行動を呼びかけました。

野党共闘の実現が可能性切り開いた。10月10日の総選挙行動を呼びかけ、選挙行動を呼びかけました。その呼びかけ行動を呼びかけました。その呼びかけ行動を呼びかけました。その呼びかけ行動を呼びかけました。

9/27 赤旗

「九条の会」事務局長に反対する